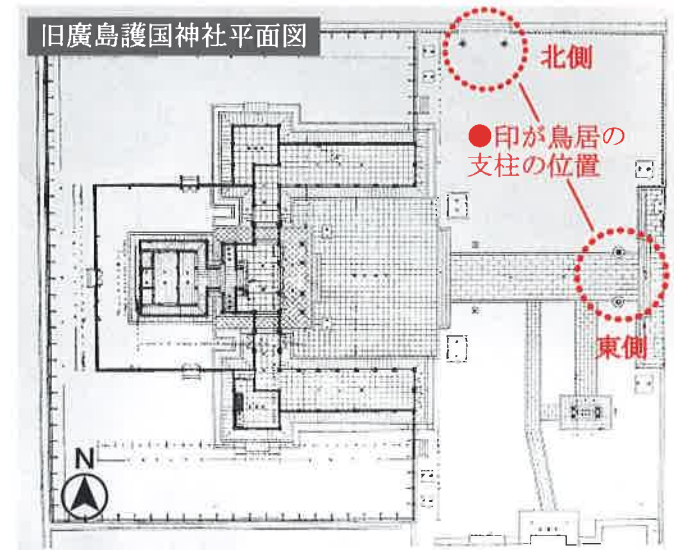
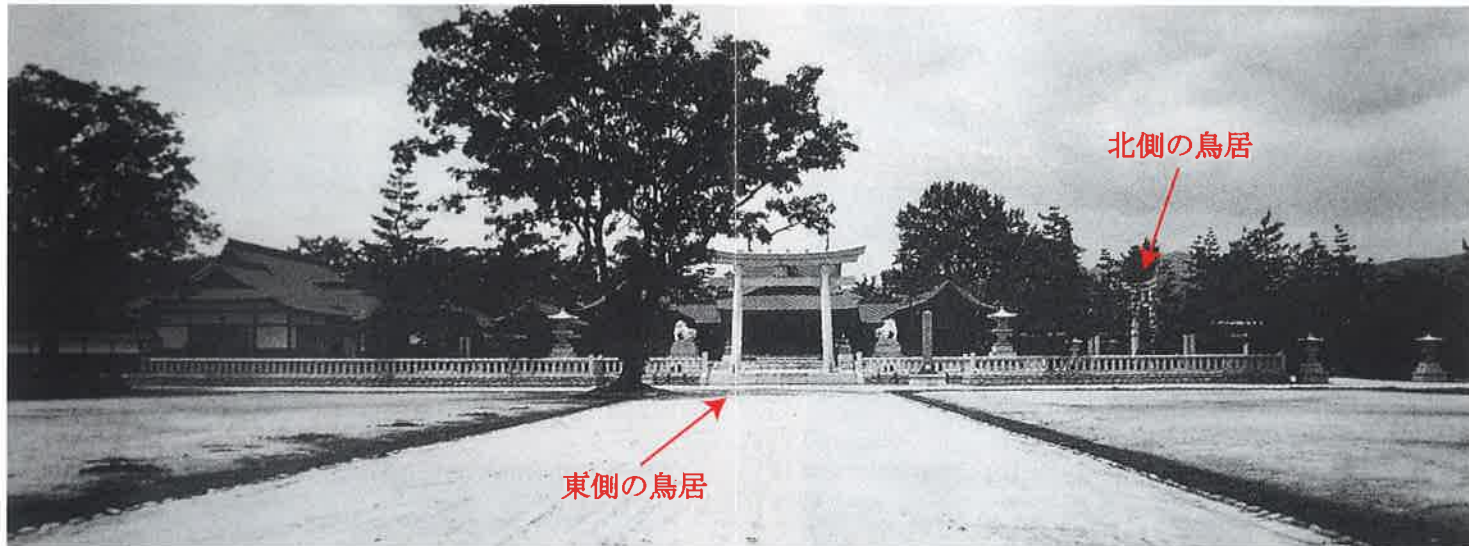


旧廣島護国神社

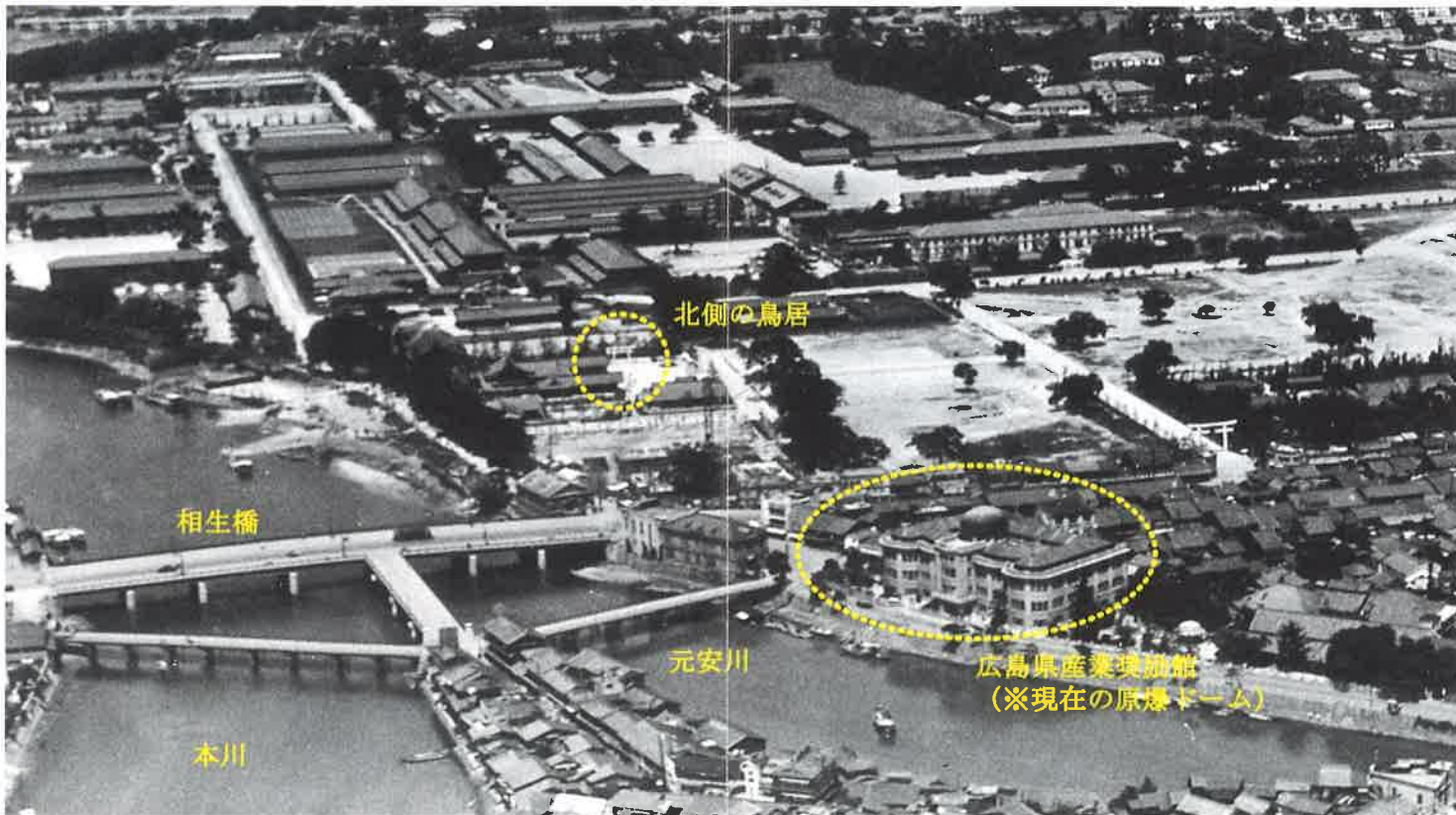
※昭和9年（1934年）頃、東から撮影



「原爆の威力まざまざ 旧廣島護国神社の鳥居台座を  
発掘 爆風で根元からポッキリ（広島県）」（抜粋）  
（出典：中国新聞社）

平和公園（旧中島町）上空から相生橋北方面を望む

昭和10年（1935年頃）（毎日新聞社提供）



26年前の原爆で崩壊した広島市基町、旧護国神社の鳥居の台座が、広島市民球場横の児童公園内から掘り出された。鳥居の台座は、広島市の下水管理設工事中、深さ3mくらいの土中から11月中旬に掘り出された。掘り出してから1ヶ月余り、これが台座であることがわからずに放置されていたが、たまたま鈴木館長（当時の青少年センター館長）が、発掘地点が旧護国神社であったことから関心を持ち、古い写真などを手がかりに調べて判明した。

台座は高さ50cm、横・縦1mのコンクリートの基礎に鳥居の柱がセメントで固定されている。爆風で根元からポッキリ折れた柱の一部がついており、原爆の威力をまざまざと見せつけている。原爆写真をとり続けている写真家、佐々木雄一郎氏の調べでは、この鳥居は、同神社に二つあった鳥居のうち正面を入れて北側に立っていたものらしく、左右どちらの台座か今のところはわからない。

鈴木館長は、掘り出されたままになっている台座を青少年センターに据え付け、同センターを訪れる若者に原爆の悲惨さを知らせたいと言っている。

（昭和46年12月21日付）